



涌小通信

知内町立涌元小学校
～重点教育目標～
主体的・協働的に学び、
認め・磨き・高め合う子
平成29年10月30日発行

「むごい教育」を考える その2

～総がかりで、生きていく力（生きる力）を身につけさせる～

校長 三上 幸喜

穏やかな秋晴れの中、たくさんのご来賓の皆様、保護者・家族、地域の皆様をお迎えして、学芸会を実施することができました。ご来校いただきました皆様方に、心より感謝申し上げます。

子ども一人一人が役割を分担し、責任を自覚しながら練習や発表に臨みました。これまでの練習の成果を、台詞や群読などの言葉で、表情や演技などの動作で、そして音楽で感動を思い切り表現することができました。一人一人が達成感を味わうとともに、自己有用感（大切な存在）を感じることができました。小さな涌元小学校にとって大変貴重な『本気になる場』となりました。

さて、前回に引き続き「むごい教育」について考えていきたいと思います。以下に手紙をご紹介します。

ママへ

はなはね、ママにつたえたいことがあるんだよ。それはね、おべんとうが全部作れるようになったこと。びっくりしたでしょ。冬休みに、パパが前の日にお酒をのみすぎて、ねぼうして学童保育に持っていくおべんとうを用意していなかった。パパは「あとで持って行くから」といったけど、はなは今からでも間に合うと思ったので、パパがお風呂に入っている間に、ごはんをたいて、自分でおべんとうを作ってみようと思った。おかずは、ばあばから…略…。お風呂のそうじとせんたくは少しさぼっているの、4年生になったらがんばる。やくそくするから、天国で見ててね。…略…。

人の悪口を言わない。笑顔をわすれない。全部、ママが教えてくれたこと。むずかしいな、いやだな、こまったな、と思っても、何とかなるもんね。「きりかえ、きりかえ」ってママがよく言ってたもんね。はな、もう泣かないよ。がんばるよ。

安武 はな



この手紙は『はなちゃんのみそ汁』（文春文庫）の冒頭の一節です。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、乳がんの告知を受けた小学校の音楽教師 ^{やすたけ}安武千恵さんと娘・はなちゃんのお話です。母・千恵さんが遺したメッセージは、

「食べることは生きること」。なぜなら、ご飯を作ることは、生きることと直結しているからです。ムスメにも、包丁を持たせ、家事を教えます。健康で生きる力が身に付いていれば、将来どこに行っても、何をしても生きていける。（本文より）でした。

様々な考え方があると思いますが、私は、幼い娘を遺して死ななければならない母の壮絶な覚悟と娘への真の愛情を感じました。心を揺さぶられました。

千恵さんは、時間が許す限り、当時4歳のはなちゃんに、料理の基本である包丁の使い方、そして、みそ汁の作り方を教えたそうです。自分がいなくなっても、生きていくことができる“生きていく力”を身につけさせるために、時には、心を鬼にして実践したそうです。

母は33歳の短い生涯を閉じました。母と娘との約束は「毎朝、自分でみそ汁を作ること」でした。

涌元小学校の教育の目標は、涌元小の子どもに“生きていく力（生きる力）”を身につけさせることです。そのためには、「確かな学力を身につけさせる」「豊かな心とたくましい体を身につけさせる」「仲間とともに活動することができるようにさせる」ことです。知内中学校へ進学し、自らの夢や希望を語り、その夢や希望の実現のために、努力し続けることができるようにすること。

そのために、涌元小職員が一丸となって取り組んでまいります。

